

令和8年度 特別養護老人ホーム事業計画

I 基本方針

介護保険関係法令の趣旨に従い、各種事業間の連携を密にすることで、個人の尊厳と自立を継続的に支援していく。また、地域包括ケアシステムの深化に向けた在宅関係サービスの柔軟な対応と、終の棲家と言われてきた特別養護老人ホーム事業の更なるサービス向上を図ることで、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援体制の構築を目指すとともに、サービスの質の向上及び地域福祉を推進する。

II 事業内容

- 1 特別養護老人ホーム高風園（以下、「高風園」）
特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援事業の5事業
- 2 特別養護老人ホーム高風園「そめやの里」（以下、「そめやの里」）
特別養護老人ホーム事業、地域密着型ユニット型特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業（R8年4月～休止）の4事業
- 3 特別養護老人ホーム明風園（以下、「明風園」）
特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、居宅介護支援事業の4事業
- 4 特別養護老人ホーム菱風園（以下、「菱風園」）
特別養護老人ホーム事業、短期入所生活介護事業、地域密着型通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業、相談支援事業（障害者福祉サービス）、地域包括支援事業の7事業

III 重点的取組と数値目標

- 1 当法人の社会的責任と将来の持続可能な事業展開を意識した取組を実践する。特に「未来創造クローバープラン」に定めた内容や目標の達成に向けた取組を強化するため、法人の行動方針を意識して行動する。
 - (1) 「人を大切にしよう」
利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努めるとともに、職員同士が互いに尊重し合い、最善の業務遂行のために協力し合うことにより、一層のサービスの質の向上に努める。
 - (2) 「新しいことに挑戦しよう」
職員一人ひとりが新しい分野に好奇心を持ち一層の高みを目指して、先駆けとなる存在としての歩みを進めていく。
 - (3) 「ムダ・ムリ・ムラをなくそう」
生産性向上推進体制を作り、介護サービスの向上と共に働きやすい環境づくりを進め、安定的な経営に繋げていく。
- 2 令和8年度における重点的な取組
各種訓練を通して、自然災害や感染症のまん延など不測の事態に備えるとともに、引き続き利用者の安心安全を第一とした適切な介護サービスの提供を行うため、令和8年度においては、下記項目を重点的に取り組んでいくものとする。

■介護サービスの質の向上

- (1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める。
- (2) 利用者が住み慣れた地域で「可能な限り自立した日常生活を営む」ことができるよう、日常生活上の支援及び機能訓練等を行うことにより、生活機能の維持向上を目指す。

- (3) 導入したＩＣＴ・ＩｏＴ等の介護機器を活用し、運用方法等を検討しながらサービスの質の向上のため、介護職員等の業務負担を軽減することにより、利用者に向き合う時間を確保する。

■人材確保・育成

- (4) すべての職員がリクルーターとなり、福祉系学校や関連機関等へ直接出向いての出前事業等による法人・施設のＰＲ活動に努めるとともに、ＳＮＳ活用などによるＰＲ活動を行うため、対応できる職員を育成する。
- (5) 外国人材の活用を含め、高齢者・障がい者雇用など、多様な雇用形態を確保し、幅広い視点での人材発掘・確保を行う。
- (6) ＯＪＴを中心とした職員研修やｅラーニング等を活用した専門的研修の受講機会の確保により職員スキルの専門性を高め、その能力を生かせる環境を整備する。
- (7) 新たに導入された人事評価制度により、①能力開発と行動変革、②成長意欲の刺激によるやる気の向上、③職員一人ひとりに対するきめ細やかな支援を行う。

■地域への貢献

- (8) 地域住民による自発的な活動組織や関係団体・事業者等との連携を図り、利用者、職員が地域の行事や活動に積極的に参加し、介護に係る総合的なノウハウの提供を通して地域社会への貢献に取り組む。

■経営の効率化・安定化

- (9) 安定的な稼働率を確保するため、利用希望者のニーズを踏まえた受入れ体制の整備やＳＮＳなどによる、地域住民・関係事業者への施設ＰＲに取り組む。
- (10) 単身化と家族形態の多様化により、身寄り・保証人のないことで、終末期の医療判断や資産管理、逝去後の手続き等、対応に苦慮することが予見される高齢者の受け皿として、積極的に受け入れるための方法を検討する。

3 各拠点区分の本年度重点課題および数値目標

(1) 高風園

重点課題

- ・平時よりＩＣＴ・ＩｏＴ等の介護機器を十分に活用し、感染症や災害の発生時の対応においても継続的な使用ができるよう目指すとともに、利用される皆様の安全と健康を確保し、安定的な園運営を図る。
- ・各事業で連携を図り、対応に困難な地域住民の受け入れ体制を整備する。
- ・増員した居宅介護支援事業所と併設の高齢者あんしんセンターとの相乗効果により、一層の利用者獲得と収益向上を目指す。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	80 床	96.5%	年間平均稼働率
短期入所	8 床	70.0%	〃
地域密着型通所介護	18 人	12 人	1 日平均利用者数（※注１）
居宅介護	—	132 件	介護 月平均
介護予防支援		36 件	介護予防相当 月平均
地域包括支援	—	800 件	相談件数（年間）

(2) そめやの里

重点課題

- ・近隣の医療機関、介護保険事業所や地元関係者等と連携を図ることにより、地域の中で施設を身近に感じていただけるよう取り組んでいく。
- ・安定的な経営を行うため、空床期間の減少に努め、稼働率向上につなげていく。
- ・外出など利用者の希望に応じた個別支援の充実を図っていく。

・通所介護が使用していたスペースの有効活用策を検討する。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	34 床	98.5%	年間平均稼働率
地域密着型ユニット型特養（個室）	20 床	98.5%	〃
短期入所	6 床	80.0%	〃
地域密着型通所介護	10 人	—	休止（4月～）

（３）明風園

重点課題

- ・安定的な施設運営のため、地域の医療機関等との連携を図り、全職員で目標稼働率を達成する。
- ・老朽化に伴う様々な修繕が必要となることから、計画的に改修及び修繕を進め、サービスと利便性の向上を図っていく。
- ・ＩＣＴ機器（ケアパレット）、介護ロボット（Hug）の導入による効率的な運用と成果の共有を行う。
- ・利用者が自分らしく人生を送れるよう一人ひとりに寄り添った個別の支援を実施する。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	80 床	98.0%	年間平均稼働率
短期入所	10 床	70.0%	〃
地域密着型通所介護	18 人	14 人	1 日平均利用者数（※注 1）
居宅介護	—	100 件	介護 月平均
		30 件	介護予防相当 月平均

（４）菱風園

重点課題

- ・施設内ＢＣＰに加え、災害時における近隣地域との連携を想定した取り組みを実施し、利用者、地域住民双方の命と生活を守る体制作りに取り組む。
- ・ＩＴＣ・ＩＯＴ導入の効果検証として業務負担の軽減状況を把握し、利用者の「したいこと」に耳を傾ける時間を確保するための方策を検討する。
- ・桐生地域における他法人事業所の相次ぐ撤退の影響により激化する高齢者・障害者の孤立という地域特有の課題に対し、既存のサービスを最大限活用することで地域ニーズの充足に寄与する。

数値目標

実施事業	定員	目標値	備考
特養（従来）	120 床	98.0%	年間平均稼働率（1 日平均 118 名を目標）
短期入所	8 床	87.5%	〃（1 日平均 7 名を目標）
地域密着型通所介護	15 人	11 人	1 日平均利用者数（※注 1）
訪問介護	—	300 回	月平均利用回数（※注 1）
居宅介護	—	95 件	介護 月平均
		50 件	介護予防相当 月平均
相談支援（障害福祉）	—	500 件	相談件数（年間）
		400 件	請求件数（年間）
地域包括支援	—	4,800 件	相談件数（年間）

※注 1：「数値目標」における通所介護ならびに訪問介護の定員・目標値は、介護予防相当サービスの利用者を含む。